

# 西濃農林事務所の普及活動状況

平成26年4月23日現在

## 今月の重点活動

### ■集落営農組織 **営農組合の法人化を支援**

平成26年4月16日、関ヶ原町役場で関ヶ原町山中地区を活動範囲とする営農組織の役員を交え、役場、JAにしみのとともに今後の支援方向について検討を行った。

当該の地区は、今年度「集落営農システムサポート事業」を活用し営農組合の活動を支援していく予定であり、営農組織と意見交換を行った。営農組織からは当面の目標は「法人化」という意向が示され、関係機関ともども今後支援を行っていくことが確認された。西濃農林事務所としては、地域各層の考えの把握も含め支援方法を検討し今後進めていく。



【営農組合との意見交換】

## 活力ある新産地づくり

### ■ブロッコリー **25年産ブロッコリー出荷終了**

平成25年産ブロッコリーは3月末に出荷終了した。出荷実績は22,607ケース(前年比81%)、28,237千円(前年比71%)、単収118ケース(前年比104%)であった。栽培面積が前年度に比べ5ha減少したことより出荷量は減少したが、単収は昨年より向上した。しかし、11月後半から2月中旬まで低温が続き、出荷が計画よりも遅れたため3月出荷が増え、品質の低下・価格が低迷したことにより単価が低くなった。

26年産では、品種・定植時期の見直しを行い、計画出荷できるように検討する。

## 売れる農畜産物づくり

### ■小麦 **良品質麦の安定生産指導**

農業普及課とJAにしみの連携して定期的に各地域の小麦の生育状況を調査している。平成25年播種の面積は2,005ha(農林61号1,297ha、イワイノダイチ669ha、さとのそら39ha)であった。今年の出穂期は「イワイノダイチ」で昨年並～1日程度早い4月9～20日、「さとのそら」は昨年より1日程度早い4月16～21日、「農林61号」で昨年より1～2日程度早い4月17～28日となる見込みである。農業普及課から各地域の生産者に対し、赤かび病予防のため出穂以後2回の薬剤防除の徹底を指導している。

### ■しろねぎ **しろねぎ新産地づくり**

不破やさい部会で昨年度しろねぎの試験栽培を行った結果、市場流通に対応できる品質のものを収穫できたことより、今年度から「岐阜しろねぎ」として、80a、10農家で栽培を開始することとなった。4月16日に、全農・卸業者・農協・部会長・普及担当者により出荷規格・暦等について検討した。

また、同日にしろねぎペーパーポット苗の播種作業を行い600枚の育苗を開始した。今後、約2ヶ月間育苗し、6月中旬に定植を行う。



【育苗作業の様子】

### ■いちご **研修会の開催**

養老西部いちご部会において研修会が開催された。3番果房の出荷が終了し、4番果房の出荷がはじまっている。管内の数量はやや少ないものの増税による買い控えが顕著となり、価格が厳しい状況(2L:200円/パック)となっている。農業普及課より、価格を確保するためには品質向上を図ることも重要なため、過熟果対策の徹底について説明を行った。

## ■なす 研修会の開催

海津なす部会において研修会が開催された。4月22日から6月13日にかけて定植が行われる予定で、5月下旬より出荷が始まる見込みである。農業普及課より定植準備から定植直後の管理について説明を行った。特に昨年は台風により後半の収量が激減したため、風害や水害対策の徹底を呼びかけた。また、今作より1名新規就農者が増えるため重点的にフォローアップを行う。なお、牧園芸組合なす部会も4月10日～4月18日にかけて定植が行われ、5月下旬より出荷が始まる見込みである。

## ■なし 花粉の発芽調査及び受粉作業支援

なしの開花は豊水は南若森4月4日、曾根4月5日頃、幸水は南若森4月7日、曾根4月9日頃となり、4月初めの高温も影響し平年より3日ほど開花が早まった。

農業普及課では、南若森地域で花粉発芽検査を実施し、生産者に対し検査結果について情報提供した。対象人数12人。サンプル数28個。H25年産、H26年産ともに花粉の発芽率は良く、平均72%と花粉発芽について問題はなかった。南若森では4月11日頃から受粉作業が開始され、4月1日の梨栽培研修会において、受粉作業時の注意事項等について情報提供し支援を行った。

## 戦略的な流通・販売

### ■6次産業化の推進 総合化事業計画新規認定事前現地調査

大垣市の大垣化染(しいたけ栽培、野菜販売)が、3月31日に総合化事業計画の申請を東海農政局に行った。書類作成指導と現地調査のため、東海農政局が4月10日に現地調査を行い、その場に農業振興課と共に立ち合いを行った。

計画の骨子は、自社生産のしいたけの加工販売の強化と、南杭瀬営農組合の栽培するブロッコリーや根菜類のスチーム加工に取り組む。

現地調査により、計画の方向性については、東海農政局担当者の理解が得られ、指摘を受けた書類の是正が期限までに整えば、新規認定の審査会にかけることとなった。

### ■産地戦略の検討 養老町果樹振興会「柿カフェ」開催

4月14日に養老町果樹振興会の総会が開催され、引き続いての研修会で農業普及課の指導の下、ワールドカフェ方式の「柿カフェ」を開催した。この形式での検討会は初めてであるが、慣れないながらも議論は盛り上がり、十分な成果が得られた検討会となった。

## 多様な担い手の育成・確保

### ■集落営農組織 営農組織の生産計画支援

4月5日に農事組合法人大垣南において上半期役員会が開催された。会議では作付計画等、上半期事業について協議が行われ、農業普及課は組合が取組んでいるハツシモ採種圃の品質向上について情報提供を行った。

役員会で決定した作付計画は、飼料用米(9.5→14ha)、飼料用稲(8.7→10.7ha)を昨年より拡大し、水田利活用持久力向上事業に対応することとなった。また、今後は売上を伸ばすために、米以外の品目でも試行していく方向が提案された。

## 県民みんなで育む農業・農村

### ■食農教育 良いきゅうりの日(4月19日)のPR

海津胡瓜部会では、海津市の小中学校給食の献立に使用してもらうように、きゅうりを寄付するとともに、青年部員が海津市西江小学校を訪問し、地産地消と良いきゅうりの日のPRを行った。